

## 磯丸のエピソード

## 夢になれなれ…

ある時磯丸は、京都の歌の先生であったしばやま<sup>しばやま</sup>だい<sup>だい</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>ん<sup>ん</sup>から食事に招かれました。女中に案内されて部屋に入ると、ごちそうが並んだお膳<sup>ぜん</sup>が二つ置いてありました。磯丸はどちらの席に座ったらよいかわからず、適当<sup>たいなごん</sup>に座って、大納言<sup>だいなごん</sup>を待っていました。ところが磯丸が座ったのは大納言<sup>だいなごん</sup>の席だったので。



磯丸<sup>いそまる</sup>は驚き急いで席<sup>か</sup>を替わろうとしたとき、大納言<sup>だいなごん</sup>は「このことを歌にせよ。」と命じました。磯丸はとっさに

ごちそうの おめしについて なす無礼 夢になれなれ 夢になれなれ

と歌い、無事にその失礼を許してもらったということです。磯丸<sup>いそまる</sup>の頓知<sup>とんち</sup>の良さや誰にでも親しまれる大らかな人柄が表れている興味深いお話です。

人は皆<sup>みな</sup>失敗をします。その時「夢になれなれ、夢になれ」と思ったことはありませんか？

伊良湖村の大火<sup>たいか</sup>

天保<sup>てんぽう</sup>3年（1832）10月2日、伊良湖村に大火事があり、ほとんどの家が焼けてしまいました。しかし、その中で磯丸の家だけが焼け残りました。村人たちは焼け残った磯丸の家を見て「磯丸はだだものではない。伊良湖明神<sup>みょうじん</sup>の生まれ変わりだ」と信じるようになりました。この出来事以来、「磯丸様に歌<sup>よ</sup>を詠んでもらえば願<sup>かな</sup>いが叶う、火事にもならない。」とあちこちで評判<sup>ひょうばん</sup>になりました。

